

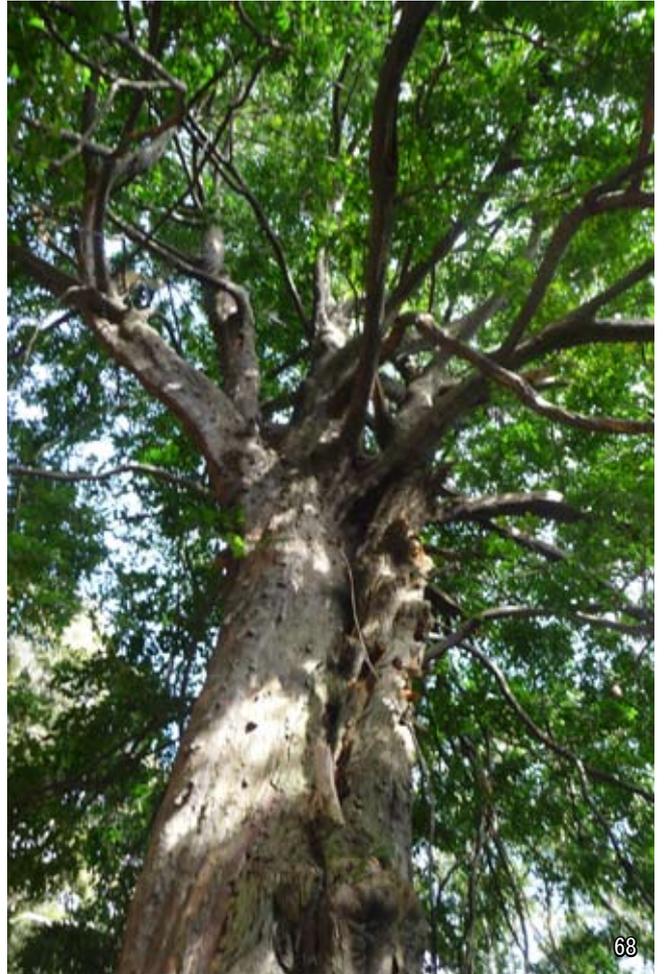


67

## 67 千早のトチノキ<sup>ちばら</sup>府

樹高：25m 幹周り：4.3m  
 樹齢：300年 指定年：平成13年2月2日  
 所在地：千早赤坂村大字千早  
 交通：近鉄・南海「河内長野」駅から、南海バス「金剛山口ロープウェイ前」行き終点下車、北へ徒歩600m

奈良県と大阪府の境にある霊峰金剛山。登山道のひとつである伏見林道の標高700m付近の谷川沿いに、この見事なトチノキがあります。天に高く伸び、手のひらのような形をした大きな葉をもつトチノキは、登山者にとって格好の道しるべとして親しまれています。



68

## 68 信達神社のナギ<sup>しんたちじんじや</sup>府

樹高：19.5m 幹周り：2.5m  
 樹齢：不明 指定年：平成15年1月31日  
 所在地：泉南市信達金熊寺795  
 交通：JR 阪和線「和泉砂川」駅から、さわやかバス山方面回り「金熊寺」下車、西へ徒歩250m

府内最大のナギの巨樹であるこの樹は、信達神社の御神木としてここに植えられ、大切に育てられてきたものです。悠々と枝を伸ばし、すこやかに育っています。

## ナギ

ナギはマキ科ナギ属の常緑高木で、本州南岸、四国、九州、南西諸島、台湾、海南島など温暖な地域に分布しますが、本州のナギは古い時代に持ち込まれたものが定着したものであると考えられています。

針葉樹ですが葉は広葉樹のような艶のある卵形で平行に葉脈が走ります。竹の葉に似ていることから一般的な「榎」以外に「竹柏」という字もあてられます。赤褐色の樹皮はうろこ状の亀裂が入ってはがれ落ちることがあります。雌雄異株で初夏に房状の小さな白い花を咲かせ、秋に粉をふいたような青っぽい丸い実が実ります。

ナギはナギラクトンという植物生育抑制物質を出す

め、ナギの木の周辺では他の植物はよく育ちません。これを見た昔の人がナギには悪しきものを祓う力があると考えようになったのかもしれない。古来熊野三山では神木とされ、ナギが風に通じることから、その葉を漁師や旅人が海難除けや道中安全のお守りとして懐に入れたと伝えられています。また、枯れ葉でも横方向にちぎるには相当な力があるほど丈夫なため、嫁ぐ女性が縁が切れないようにという願いを込めて鏡の裏にナギの葉を忍ばせる風習もあったそうです。樹皮には大量のタンニンを含むため皮なめしや染料に利用され、最近では材から抽出した強い芳香を持つオイルがアロマセラピーに利用されています。



## 69 枚岡の原始ハス<sup>府</sup>

樹 高： 幹周り：  
 樹 齢：古代種 指定年：昭和45年2月20日  
 所在地：東大阪市善根寺町4-11-33  
 交 通：近鉄けいはんな線「新石切」駅から、近鉄バス「四條  
 畷住道駅」行き「善根寺」下車、北西へ徒歩700m

河内平野の低地には、昔から原始的な形質を持つハスが自生していました。食用にならない大賀ハスの近縁種です。周辺の水田化が進んで絶滅しかかっていたものを、個人のお宅に移植して大切に残してきてくれたものです。可憐な花は心が洗われるようです。6～7月頃に花が咲きます。

## ハス

ハスはスイレン目ハス科の多年生水生植物で、インド原産です。ハスという呼び名は花托の形から連想した「ハチス」が語源です。蓮華という言葉は仏教とともに伝来した古い用語で、古代寺院の軒瓦の紋様や仏像の台座に蓮華をモチーフにしたものも多く見られるなど、仏教と深く結びついて親しまれてきました。「蓮は泥より出でて泥に染まらず」という成句はブツダの清らかさを称えたもので、古くヒンズー教の経典にそのルーツをたどることができます。

ハスの葉は緑が波打った円形で撥水性があり、玉のようになった露がたまることから、この露で墨をすって七夕の短冊を書いた記憶のある人も多いでしょう。葉は水面より上に出るものが多く、同じ目のスイレン

とは異なるところです。盛夏の早朝に白またはピンクの花を咲かせます。

ハスの実は外皮が厚く非常に長い年月がたっても発芽することがあります。2,000年位前の弥生時代の遺跡から出土して発芽した「大賀ハス」や中尊寺金色堂の須弥壇から発見されて800年ぶりに発芽した「中尊寺ハス」などが有名です。

地下茎（レンコン）はポピュラーな食材ですし、実も甘納豆などにして食べられます。葉は香りがよいことから食材を包んで蒸しものに利用したり、お茶の香りづけに使ったりもします。



70

## 70 和泉葛城山のブナ林

樹高： 幹周り：  
 樹齢： 指定年：大正12年3月7日  
 所在地：岸和田市塔原町字葛城、貝塚市蕎原字葛城  
 交通：南海本線「岸和田」駅から、南海ウイングバス「牛滝山」行き終点下車、南へ徒歩7km（和泉葛城山頂付近）

和歌山県と境を接する山頂付近に、ブナの原生林が広がっています。八大竜王社の社林として残されてきたこの森には、いかにも長い年月を生き抜いてきた風格のある巨木も見られます。ここは修験の山でもあり、林道の随所に町石が建っているのが印象的です。

### ブナ

ブナはブナ科ブナ属の落葉高木で、日本の亜高山の落葉広葉樹林の主要な構成種です。日本で作られた「樫」という漢字は使い道のない木という不名誉な意味だそうです。そのためスギやヒノキの植林のために伐採が進み、ブナの原生林は消滅寸前に追い込まれましたが、近年ブナ林の持つ優れた保水力が注目されるようになりました。世界自然遺産に登録されて一躍脚光を浴びた白神山地のブナ林などは地元の人たちによる地道な保存運動の結果残ったものです。本州中部以西では標高が1,000～1,500mの山地がブナ林帯となります。南限のブナ林は鹿児島県高隅山ですが、ここも1,000mを超える亜高山です。

若木はしなやかで曲げに強いいため、雪の多い山地では雪折れせずに幹が異様に曲がったまま成長したもの

もたくさん見かけます。

葉は縁が波打った楕円形で、春に房状の黄色っぽい花を咲かせ、秋に柔らかなとげのある包に包まれた実がなります。包の中の種はソバの実のような形で脂肪分が多く、生で食べても甘みがあります。ただ、ブナの開花結実は非常に不安定で、豊作、不作のサイクルは5～10年ともいわれます。

材は狂いが生じやすいうえに腐りやすいことから、薪炭材としての利用が主なものでしたが、現代では曲げに強い特性を生かし合板にして家具の脚などにも使われています。

和泉葛城山のブナ林と妙見山のブナ林はともに寺社林として残されてきたもので、標高の低い太平洋側の山地では奇跡的に残ったものといえます。



### 71 妙見山のぶな林府

幹周り：0.5m以上のぶな約400本  
 樹 齢：700～800年 指定年：昭和58年5月2日  
 所在地：能勢町野間中316、317  
 交 通：妙見リフト「妙見山」駅下車、北へ徒歩1km

ブナ林は、摂津の古刹・能勢妙見山の山頂から南西にかけての斜面地に広がっています。山頂の標高はおおよそ660mであり、かなり低い地域に生育するブナ林として西日本では貴重です。緑豊かなブナ林は参拝者や登山者を優しく迎え、その目を楽しませてくれます。

### 72 若山神社のツブライジイ林府

樹 高：32m 幹周り：4.2m  
 樹 齢：200年前後 指定年：平成14年1月29日  
 所在地：島本町大字広瀬1497  
 交 通：JR「島本」駅から、阪急バス「若山台センター」行き終点下車、西へ徒歩500m

ツブライジイはシイ属ブナ科の常緑高木です。若山神社の鳥居から本殿奥にかけての参道周囲にある巨樹42本が府の天然記念物（植物）に指定されています。最も大きいものは、幹周り4.2m、樹高32mに達します。

古くから手入れや保護がなされてきたことから、巨樹の社叢が形作られたと思われます。

